

# 第1回大分市長寿応援バス事業のあり方検討会 議事録（要旨）

## 1. 開催日時

令和5年8月31日（木） 14時00分～15時50分

## 2. 開催場所

大分市保健所6階 大会議室

## 3. 出席者

15名、事務局、その他（国土交通省九州運輸局大分支局職員）1名

## 4. 傍聴者

なし

## 5. 次 第

1. 開 会

2. 委嘱状交付式

3. 市長あいさつ

4. 委員紹介

5. 会長、副会長選出

6. 議 事

（1）大分市長寿応援バス事業の概要について

（2）大分市高齢者ワンコインバス事業のあり方検討会の報告について

（3）対象年齢引き上げ、利用料金見直しの効果の現状について

（4）乗合バス事業の現状について

7. その他

今後のスケジュールについて

8. 閉 会

## 6. 議事（意見要旨）

### （議題 1）大分市長寿応援バス事業の概要について

事業の概要、事業費、事業の変遷、事業対象者・乗車証交付者数の推移、事業の評判・評価について、資料に沿って事務局より説明

（委員）

検討会は今後どのような頻度で行われるのか。  
また、できるだけ事前に資料を送付して欲しい。

（事務局）

今後の開催予定は、今年度中 3～4 回を想定しているが、次年度以降にずれ込むこともある。資料の事前送付は検討したい。

### （議題 2）大分市高齢者ワンコインバス事業のあり方検討会の報告について

大分市高齢者ワンコインバス事業のあり方検討会の報告について、資料に沿って事務局より説明

（委員）

私はバスに 1 日 6 回くらい乗っている。50 円を用意しなくて良いので、私は IC カードがよい。IC カードは具体的にどういうやり方で考えているのか。利用者がどのように IC カードを利用するのかがイメージできていないので説明してもらいたい。

（事務局）

IC カードの利用方法は、バスの乗車時及び降車時に IC カードリーダーにタッチする。

今後 IC カードを導入する具体的な手法などは次回以降お示ししたい。市民の方が IC カードに変更する際、窓口に来なければならないのか、自宅から申請書を送付すれば済むのかといった手間、IC カードにと現金を併用できるようにするのか等について、今後検討していただくことになると思われる。また、他市の IC カード事例も紹介しながらご意見をいただきたいと考えている。

（委員）

高齢化が進む中で、高齢者が安価なバス料金で利用できて、外に出る機会を持てば健康寿命の延伸にもつながる。ただ、バスを利用したくてもできない人たちがいる。バスを利用したくてもできない人がどれだけいるかをニーズ調査しているのか。

(事務局)

長寿応援バスはバス停まで行ける人が前提であり、バス停まで行けない人についてはまた別のサービスの提供が必要となる。バスのニーズ調査は行っていないが、長寿応援バスの利用が減少している現状があることから、利用促進を図っていかなければならない。また、バス停まで行くのに困っている方に対しては、乗合タクシーである「ふれあい交通」の制度があるので、そのような制度を市民に知っていただくための周知が必要であると考えている。

(委員)

近所でバス利用される方も多くいるが、ノンステップでないバスでは乗り降りが難しい方もいる。熊本でバスの運転手が簡易スロープを設置して車いすの利用者の介助を行っている場面を見たので、そういったものもあればよいと思う。

(委員)

バリアフリーの車両の導入がかなり遅れている。更新する車両はすべてバリアフリーの車両にしていたが、新型コロナウイルス感染拡大以降、収入の減少によりバスの更新が遅れている。ご意見いただいた簡易スロープについては調査したい。

(委員)

バリアフリーの車両の導入を進めているがなかなか代替が進まないのが現状である。大分市のノンステップバスの補助金を活用しながら購入を進めて行きたい。

### (議題3) 対象年齢引き上げ、利用料金見直しの効果の現状について

事業対象者数と乗車証交付者数の減少、委託料の見込と実績、総運賃収入に対する利用者・行政・バス事業者の負担割合について、資料に沿って事務局より説明

(委員)

前回、制度の見直しを行い、実績が徐々に少なくなると予想していたが実際はコロナの影響でかなり実績が減っている。5月以降コロナが5類になったが、今後の乗車数の見込みはどうか。

(事務局)

バス利用全体の利用者は戻って来ているが、長寿応援バスの利用者数の戻

りは鈍い。令和4年度とほぼ横ばいの回数となっている。

#### (議題4) 乗合バス事業の現状について

国土交通省九州運輸局大分運輸支局、大分バス(株)、大分交通(株)より説明

(委員)

バス事業者からの説明で、ドライバーの高年齢化や人員不足など大変な状況を実感した。従来のルートや停留所にこだわらない、新しいバス運行スタイルについても今後考えていかないといけないのではないかと。今までの路線、ルートだけではなく、例えば病院や買い物ルートだけを回る路線など、利用目的に特化したような新しい動きも必要ではないかと。

(都市交通対策課)

路線バス以外にも、バス路線のない周辺地域からバス停まで予約制の乗合タクシー「ふれあい交通」をタクシー会社に委託して運行している。また、路線バスが廃止となった地域に代替交通を運行している。

(委員)

普段バスに乗らない人は、郊外から中心部に行く時は良いが、中心部ではたくさん乗り場があり、どこから乗ったらよいかわかりづらいようなので、案内をわかりやすくしたり、案内する人を置いたりできないかと。

また、路線について、例えば下郡から大洲に行くためには、一旦中心部出してから乗り換えなければならず、距離は近いがバス利用がしづらい現状もある。スポーツ大会等ある時には臨時便を出すなどの対応があるとよいのではないかと。

(委員)

自宅から中心部に行くときは「大分駅」と表示があるのでわかりやすいが、街中には乗り場も多く分かりづらいというご意見をいただいている。事業者と行政で検討していきたい。

なお、グーグルマップで目的地を指定し、公共交通機関で経路を検索するとバス停や到着時間を出す機能を今年の3月に実装したが知られていない。例えば、子どもたちには学校等を通じて周知するなど周知の方法を考えたい。

#### (その他)

(委員)

人口全体が減少する中、高齢者は増えている。長寿応援バス乗車証の交付率が78%もあるが、今回、利用者が少ないことを知った。もっとたくさん

の方に元気にバスを使って出かけて欲しい。これからもっと使いやすい長寿  
応援バスにして、高齢者自身の活性化はもちろん、大分市全体の活性化につ  
ながっていければ良いと思う。

(事務局)

ご指摘のとおり、気軽に外出できる環境を整備して、高齢者の健康の増進・  
積極的な社会参加が本事業の目的である。今後ICカード化がメインの議題  
になるが、利用促進や利便性の向上につなげていきたい。

(委員)

高齢者はあちこち出かけたが、色々学びたいというニーズもある一方で、  
身体的に、または距離的に難しいこともある。交通と福祉は協力しなければ  
ならないと思う。2つの部局の交流や意見のマッチングができるようなプロ  
ジェクトは行っているのか。

(事務局)

本日の会議には交通の担当課である都市交通対策課が同席している。より  
利用者が使いやすいような交通施策についてはお互い連携しながら実施し  
ている。

(委員)

バス事業者の方への質問だが、女性の運転手の声かけが高齢者にも好評だ  
と感じる。女性ドライバーの比率はどれくらいか。

(委員)

女性ドライバーは5人前後。運転手が不足している中、トラックの運転手  
がバスの運転手に転職する人が多く、新卒が少なく女性が少ないのが特徴。  
女性の運転手の着替えや休憩所の環境を整え、少しずつ増えている。今後も  
増やしていきたい。

(委員)

女性の運転手は現在1名。

## 7. その他（今後のスケジュールについて）

次回日程確認：令和5年10月26日（木）14時00分～（予定）

以上